

大館の歴史散歩

戊辰戦跡を歩く ⑨

葉隠の古武士 田村乾太左衛門 (上)

故郷に火を放ち退却した大館勢は、荷上場集結し、七座の天険を利用して守備を固めた。南部勢にこの陣を破られると、久保田までは遮るものがない広野となる。北部戦線はおろか、秋田戊辰戦の勝敗はまさにこの地での一戦にかかっていた。

この決戦場に、援兵として田村乾太左衛門が率いる佐賀・小城兵が陣容を整えたのは、八月二十八日であった。この日から戦況は一転する。最新の近代洋式装備を整え、当時最強の陸戦隊であった佐賀・小城兵の応援を得て、やがて大館勢は故郷を奪回するが、この戦いを指揮した北部戦線総隊長田村乾太左衛門



佐賀城大手門

とはいかなる人物だったのであろうか。

秋田戊辰戦の最大危機を救い、大館を奪回した人物として、市民の皆さんは田村乾太左衛門の名を一度は聞いたことがあるだろう。しかし、大館・秋田ではその人物像について、知り得る資料を一片すら手に入れることはできなかった。そこで私たちは、田村乾太左衛門を求めて佐賀の地を訪ねた。得ることのできた資料はわずかであったが、

乾太左衛門の姿がおぼろげながら浮かんできたのでここに紹介してみたい。

田村乾太左衛門昌宗(以下昌宗と記す)の生年月日は不明であった。没年は明治四十二年十二月十三日であるが、短期間の調査では残念ながら享年を知ることができなかった。また、墓所・碑所を知ることができなかった。よって昌宗が大館奪回戦に総隊長として参戦した時の年齢は不明であるが、没年からして、明治元年当時は三十歳前後、二十歳代後半ぐらいであったのではなかろうか。

昌宗が奥羽戊辰戦に登場するのは、慶応四年閏四月、奥羽鎮撫総督九条道孝が、仙台から大総督府に庄内追討の援兵を求めた際のことである。大総督府が佐賀兵六百人、小倉兵二百人の派兵を命じ、佐賀藩は江戸邸に屯集していた兵五百余を選挙、最も作戦能力に富む人物として指揮者に昌宗を選出した。昌宗は以後、奥羽総督府に随行し、奥羽各地を転戦することになる。佐賀藩には「著到」(着到)と呼ぶ兵籍があり、総家中を大組という十五組に分けている。元治元年(一八六四年)の著到によれば、昌宗は鍋島隼人が率いる大組「隼人隊」にあって、米十石を給与与えられている。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『黒潮に乗ってきた古代文化』

小川 光暘 著 日本放送出版協会

日本古代文化の伝えられたルートは……?

飛鳥を彩る石造遺物 亀石・猿石……の迷?

環太平洋地域に点在する謎の石造遺物を通して、古代人の宇宙観をさぐる。



◇フォレスト (C.W.ニコル) ◇アーニーの冷たい朝 (黒川博行) ◇敵対的買収 (清水一行) ◇砂に書いたSOS (船越準蔵) ◇見知らぬ海へ (隆慶一郎) ◇私の読書日記 (うつみ宮土理) ◇ブラックノディが棲む樹 (高樹のぶ子) ◇暗闇坂の人喰いの木 (島田荘司) ◇鏡の谷 (木崎さと子) ◇ニュースキャスター [I・II] (アーサー・ヘイリー) ほか

◇絵巻えほん船 (柳原良平) ◇スズメバチの生活 (有賀文章) ◇がんばれ!赤ちゃんラッコのラリー (島田治子) ほか

12月のテーマ関連図書コーナー 『鎮魂歌 '90』

親子読み聞かせ会 毎月第1金曜日 (午後2時分30分から) 中央図書館の休館日・12月16日、23日、24日、27日～31日、1月1日～4日、15日

市民の声

犬は散歩のときも放さないで!

犬を飼っている人をお願いします。私の家の近くでもよく犬に散歩をさせている人を見かけますが、中には犬にひもや鎖をつけずに連れてくる人がいるんです。狭い道路上で自由に飛び出されたり、子供たちがかまれたりしたらと心配になります。散歩させるときに犬を放して連れて歩かないでください。

(象ヶ鼻・主婦)

大館保健所に相談してみたところ、大館市では放し飼いにしているの苦情が一番多く、放し飼いの割合は全県でみても高い方だということでした。また、犬のふんの問題や、はきものをもっていく、畑を荒らして困るなどの相談もあるそうですが、これらはいずれも飼い主の常識・マナーに頼らなければ解決できないとのこと。犬が嫌いな人もいますし、住宅地や交通量の多い場所などではいつ事故の原因になるかもしれませんから、放し飼いはもちろん散歩の際にも注意を払ってほしいものです。

